



〈雑録〉我商法ニ於ケル株式拂込請求權ト株式質權ト ノ關係ヲ論ジテ英國會社法ノLien on Sharesノ觀念 ニ及ブ

花岡， 敏夫

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 16(6):1027-1034

(Issue Date)

1914-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052223>



我商法ニ於ケル株金拂込請求權ト株式質權ト ノ關係ヲ論ジ英國會社法ノ Lien on Shares ノ 觀念ニ及ブ

法學士 花岡敏夫

一 緒 言

株金ノ拂込強要ニ關スル規定ハ、資本ヲ充實セシメ會社ノ存立ヲ強固ナラシムルガ爲メニ設ケラレタルモノナルヲ以テ、其規定ノ實質ハ株式會社ノ根本的重要問題タルコト敢テ辯明ヲ待タズト雖モ徒ラニ之ガ重要ナルコトノ聲ニ驚キテ公平ナルベキ立法及ビ解釋ヲ無視スベカラザルハ勿論ナリトス。

今我商法第一五二條第二項同第一五三條第一項ニヨレバ株主ガ株金ノ拂込ヲナサバルニヨル第二回ノ拂込催告ニ於テハ、其拂込ヲ爲サバルトキハ株主權ヲ失權セシムベキ旨ヲ豫告シ、之ヲ怠リタル場合ニハ當然其株主タル權利ヲ失權セシメ得ルナリ、(失權ヲ以テ株式消滅ナリト説クモノアレドモ會社ガ取得スルヲ見レバ消滅ニアラザルベシト信ズ)從ツテ此場合ニ於ケル未拂込株式ニ對スル質權者ハ僅カニ失權ニ關スル公告ヲ見得ルノ保護アリ之ニヨリテ不充分ナレドモ代位辨濟ヲナスノ便宜ヲ有セルガ、若シ之ヲ辨濟セザレバ質權ヲ全ク消滅セ

我商法ニ於ケル株金拂込請求權ト株式
質權トノ關係ヲ論ジ英國會社法ノ
On Sharesノ觀念ニ及ブ

シメラル、ナリ、(余ノ意見トシテハ株式質權ハ此場合ニ於テモ尙ホ消滅セ)故ニ其地位頗ル薄弱ニシテ其名ハ質權ナリト雖モ其物權的對抗力ニ乏シク恰モ物ノ消滅ト同一ニ取扱ハル、ナリ、然モ會社ハ獨自ラ其株式ヲ完全ナル形態ノ下ニ收得スルヲ得且其收得以後ニ於ケル地位ニ就キテモ法律ガ敢ヘテ干涉スル處ナキハ果シテ株式拂込強要權トシテモ相當ナリヤ、是レ此ニ本論ヲ草スル所以ナリ。

二 株式質權者ノ地位

此點ニ付キ從來ノ沿革ヲ云ハンカ、先ヅ我立法者ハ最初單純ナル頭腦ヲ以テ現行民法成立ノ際議會ガ強イテ修正ヲ加ヘ、記名ノ株式ニ對スル權利質ノ場合ニハ質權設定ノ通知ヲ要セズ單ニ株式ノ交付ノミニテ足レリト爲シタルコト即チ民法第三六四條第二項ヲ設ケタルノ結果トシテ株式質權者ノ地位ヲ保護スルニ適當ノ途ナシトシ其後我商法モ亦之ニ倣ヒテ單純ニ株主ガ株金拂込請求ニ應ゼザルトキハ株式質權者ノ地位モ亦法律上全ク保護ノ途ヲ與ヘザルモ止ムヲ得ザルモノナリトセラルルニ至レリ。

註

余ガ如此キ斷定ナナシテ我商法ヲ非難セル所以ハ、蓋シ當時既ニ行ハレタル獨逸現行商法第二百十九條第二項ニハ明ラカニ質權者其他ノ利害關係者保護ノ爲メニ我商法ガ過般修正ヲ加ヘタルヨリモ更ラニ一層深ク注意シ株式失權ノ豫告ハ之ヲ三回公告スルコトヲ必要トシ且其第一回ノ公告ハ拂込ノ爲メニ定メタル期間以前少クトモ三箇月前タルヲ要シ又最終ノ公告ハ少クトモ一箇月前タルコトヲ要ストノ明白ナル規定ノ存セシニモ拘ラズ特ニ之ヲ無視シ、過般商法ノ一部修正ニ於テ漸ク獨逸商法ニ倣ヒタレバナリ。

然レドモ如此キ粗雜ナル立法ハ固ヨリ今日ノ我經濟事情ヲ無視セルモノナリトノ非難ノ聲高ク遂

ニ過般商法修正ニ際シ獨逸商法ニ倣ヒテ第一五二條ニ第三項ヲ追加シ又タ第一五三條ニ同條ノ二ナルモノヲ追加シタリ即チ

「會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ會社ハ其通知スヘキ事項ヲ公告スルコトヲ要ス」(第一五二條第三項)

「前條第一項ノ規定ニヨリ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滯ナク其株主ノ氏名、住所、及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス」(第一五三條ノ二)

蓋シ此等追加條項ハ立法者ガ從來ノ單純ナル會社本位ニ添ユルニ株式質權者ノ地位ヲ多少ナリトモ保護スベキ融和手段ヲ採リタルモノナレドモ、(同ヨリ失權豫告ノ公告ハ質權者ノ爲メノミナラズ白紙委任狀附ニテ株式ヲ取得タル者ヲモ保護スルニアレドモ)未ダ獨逸商法ニ於ケル質權者(廣ク利害關係者)保護ノ程度ニスラ劣レルノミナラズ依然トシテ株金拂込請求權ノ爲メニ株式質權ハ當然喪失スルモノナリトノ單純ナル思想ニ過ギズト信ズ何ントナレバ此場合ニ會社ハ其失權セシメタル株式ヲ獨自ラ完全ナル(即チ質權設定ナキ)地位ニ於テ取得シ且競賣ニ附スベキ絶對ノ制限ナク且其時期ニ付テモ制限ナキヲ以テ(一)必ラズシモ常ニ競賣ニ附スルノ義務ナク却ツテ會社ノ利益ヲ本位トシテ適當ノ時期ニ於テ一層高價ニ若クハ會社ノ便宜ニ賣却シ得ルノミナラズ(二)若シ之ヲ競賣ニ附シテ剩餘金アルトキハ自ラ之ヲ利得スルコトヲ得ルハ質權者ノ地位ト比較シテ其權衡ヲ失セルノミナラズ如此ハ怠慢ナル株金拂込義務者ニ對スル制裁ヲ殊ニ質權者ニマデ及ボサントスル不條理アルモノト信ズ。

(一)株式競賣チナスハ不足額ヲ請求セントスル場合ニ必要ナル條件タレドモ若シ會社ニシテ此不足額請求權ヲ行使スルノ必要ナシトセル場合ニハ、會社ハ自ラ相當ナリトスル時期ニ至ルマデ之ヲ取得シ且適當ナル方法ノ下ニ賣却シ得ルモノト解釋セザルヲ得ズ、勿論法文ニハ競賣スベキ規定アレドモ何等ノ責任若クハ制裁ナク又タ其競賣スベキ時期ヲ遷延スルガ如キハ理論上不當ナルコト明ラカナレドモ特別ノ條文ナキ限りハ勢ヒノ然ラシムベキ結果ナリト云ハザルヲ得ズ而シテ此等ノ點ハ現今株式會社ノ實際ニ於ケル一大惡弊ナリト雖モ本論ニ直接ノ關係ナキヲ以テ他日更ラニ論難セントス。

(二)株式競賣ニヨル剩餘金ハ之ヲ自ラ利得シ得ルヤ否ヤハ直接ノ明文ナキヲ以テ疑問トセラレシモ今日ニテハ一般積極說ヲ採ルコトニ付キ學說裁判例共ニ一致セルガ如シ、然レドモ株式失權ニヨル消滅ヲ採ラザル以上ハ剩餘金ハ之ヲ失權者ニ交付スベク、殊ニ質權者ニ給付セラル、ハ相當ナリト信ズ。

三 一般ノ第三者ト質權者トノ比較

本來株式會社ノ資本ヲ充實セシムルハ會社信用ノ基礎ニシテ第三者ノ利益ヲ保護スル上ヨリ見テ當然ノコトナレドモ其所謂第三者ナルモノ、範圍及ビ保護ノ程度ニ付キテ之ヲ熟考スルニ株式質權者ナルモノ、利害關係ハ直接且明確ニシテ之ヲ株式會社ニ關スル一般債權者即チ間接且漠然タル利害關係人ト相比較スルトキハ果而我商法ニ認ムルガ如キ優劣ヲ相當トセルヤ否ヤハ頗ル疑問ナリト信ズ。

何トナレバ資本充實ヨリ生ズル利害關係即チ一般債權者ノ利害ナルモノハ、例ヘバ資本金壹百萬圓ノ會社ニシテ現實ナル拂込金貳拾五萬圓ナル場合ニ其未拂込資本タル金七拾五萬圓ノ會社財産ナルモノハ之ヲ現金若クハ之ニ等シキ價值ヲ有スル七拾五萬圓ノ現實財産ニ比スレバ其輕重大小ノ差異甚ダシキハ何人モ熟知セル處ナルノミナラズ株主ハ一旦其將來ノ拂込ヲ恐ル、場合ニハ何時ニテ

モ之ヲ他人即チ無資力者ノ名義ニ變更シテ、假令法文ノ規定アリト雖モ事實上殆ンド其追奪ヲ免カ
ル、ニ近キ結果ヲ生ジ得ベキナリ、是レ株式ノ自由讓渡ヲ制限セザル限リハ必然ノ結果ニシテ畢竟
未拂込株式金額ヲ一般債權者ニ對スル頗ル強度ニシテ且正確ナル擔保ナリト云フガ如キハ殆ンド實
際ヲ洞察セザル者ノ言ニ過ギズ。

我舊商法ニテハ失權株主ノ責任ニ付株式金額半額拂込前ノ株式讓渡人ノミニ付テ擔保ノ義務ヲ認メタルガ如キハ却ツテ常識ニ
適ヘル點ナクンバアラズ、然ルニ現行商法ガ徒ラニ資本充實ノ空論ノ下ニ絶對的拂込義務ヲ認メタルノ結果今日ノ實際ニ於テ
未拂込株金アル會社ノ株式ヲ惡漢等ガ買占メテ會社ヲ乘取リタル後着實ナル資本家ヲ苦シマシムルハ多數ノ事例トシテ吾人ノ
平素遭遇スル處ナリトス

更ニ又論者或ハ未拂込株式ニ對スル金融即チ其質權ヲ獎勵スルハ徒ラニ投機ノ弊風ヲ助長スルモ
ノナリトカ、株主ハ其株式引受ト共ニ早晚全部ノ拂込義務ヲ負擔セルコトヲ自覺セルモノナリト云
フガ如キ單純ナル頭腦ヲ以テハ到底經濟界ノ發達及實況ヲ俱ニ談ズルニ足ラザルナリ。

殊ニ我國ノ如キ未ダ資本ニ乏シキ經濟狀態ニ於テハ、一方ニ資本ニ對スル金融關係ヲ熟慮スルト
同時ニ現ニ獨逸ニ行ハル、ガ如ク未拂込アル株式ノ定期賣買ヲ禁止スルヲ相當ナリトシテ一般ニ認
ムルニ至ラザル限リハ未拂込株式ニ對スル質權者ノ地位ハ特ニ慎重ナル研究ヲ要スベキモノナリト
信ズ。

四 Lien on Shares.

前述ノ如ク我商法ガ失權株式ニ付會社ニ於テ無條件ニ之ヲ收得セシムルコトハ至當ナラズト考フ

ルノミナラズ之ニ對スル質權ヲモ絶對ニ消滅セシメ且剩餘金ヲ自カラ收得セシムルガ如キハ經濟上
ニモ亦タ法理上ニモ不當ナリト信ズ、是レ余ガ英國會社法ニ於ケル株式ニ對シテ會社ノ有スル擔保
權(Lien on the shares)ノ觀念ヲ更ラニ述ベントスル次第ナリ。

英國會社法ニヨレバ會社ハ未拂込株金其他ノ債權請求ニ付キ定款ヲ以テ其株主ノ有スル株式ニ對
シ第一優先擔保權(the first and paramount lien)ヲ有スト規定スルヲ常トス(會社法附屬機
別規定ナキ場合ニハ會社ハ株式ニ對シテ當然ニ此物上擔保權(lien on shares)ヲ有スルモノニアラズ
是レ即チ我商法ニ於テ未拂込株金ノ爲メニ會社ガ當然ニ其株式ニ對スル質權者ニ優越セリトナスノ
ミナラズ其質權ヲ消滅セリトナセル規定ト其根本ノ見解ヲ異ニセル處ナリトス。

次ニ此種擔保權ガ第三者ニ對スル效力トシテハ此種擔保權發生以前ニ其株式ニ對スル請求權(其株
對スル質權設定若クハ)ヲ生ジ之ヲ登録シタル場合ニハ其第三者ノ地位ヲ以テ優越セリトナスハ勿論ナル
賣買ニヨル所有權移轉)ガ、更ラニ論究ノ必要アルハ未ダ其登録手續ナキノ際ニ本件擔保權ノ規定ヲ設ケタル場合はレナリ
而シテ此場合ニ於ケル優劣問題ノ解決ハ前述ノ如キ未ダ登録ナキ權利即チ英法ニ所謂衡平法上ノ請
求權ニ對シテ會社ガ免責セラレ得ルコトノ規定ガ定款ニ設ケアリシヤ否ヤニヨリテ決スベキナリ、
即チ定款ニ此種擔保權ノ爲メニ衡平法上ノ請求權ヲ否認シ得ベキ免責規定アルニ非ラザレバ此種擔
保權ヲ以テ會社ハ第三者ニ對抗シ得ザルナリ、故ニ若シ定款ニ單ニ此種擔保權ノ規定ヲ設クルトモ
特ニ衡平法上ノ請求權ヲ否認シ得ベキ免責規定ニ及バザル場合ニハ此種擔保權ハ第三者ノ有スル衡

平法上ノ請求權ニ優越スルコトヲ得ザルナリ、是レ蓋シ株主ガ株式ヲ第三者ニ擔保ニ供シ得ル權利ヲ成ルベク制限セシメザラントスルニ出デタルモノナリ。

更ニ英國會社法ニ於テモ株式ニ對スル第三者ノ權利ニシテ設定登錄ヲ請求シ得ルモノトハ如何ナルモノナルヤハ議論アル處ニシテ嘗テ Bradford Banking Co., v Briggs (1887) 上訴事件ニ於テ株式ニ對シテ占有ヲ取得シテ質權ヲ設定シ之ヲ會社ニ通知シタル場合ニハ之ヲ信託ノ通知 (notice of a trust) ニ非ラズトノ旨趣ヲ以テ登錄スベキモノナリトシ而シテ同會社ノ定款ニハ擔保權條項アレドモ第三者ノ衡平法上ノ請求權ヲ否認シ得ベキ免責規定 (exemption clause) ノ設ケアラザリシヲ以テ本件株式擔保權ニ對抗シ得ルモノナリト判決セラレタリ。

此種擔保權ノ實行方法ハ多クハ之ヲ定款ニ規定シ之ニヨリテ其株式ヲ賣却シ又必要ナル場合ニハ會社ハ買主名義ニ株式ヲ變更スルコトヲ得、又若シ本件擔保權ノ實行方法ニ關スル規定ナキトキハ之ガ實行ヲナスニハ豫メ裁判所ノ認可ヲ受ケザル可ラズ、而シテ此種ノ擔保權ハ衡平法上ノ擔保權ニシテ其實行方法トシテハ直接ニ株式ヲ沒收スベキ旨ヲ規定スルコトヲ得ズ、即チ本件ノ擔保權ト株式沒收トハ別箇ノ性質ヲ有スルハ Salt v Marthampton (1802) 事件ノ判示セル所ナリ、(殊ニ英國會社法ニテハ株式ヲ沒收シタルトキハ最早其以後ニ於テハ不足金ヲ追徴シ得ザルヲ本則トスルナリ)

尙ホ此種擔保權ノ效力範圍ハ單ニ株式拂込金ニ關スルモノナルノミナラズ其利益分配金ニ對シテ

我商法ニ於ケル株金拂込請求權ト株式
質權トノ關係ヲ論ジ英國會社法ノ
Companies Act 1862ノ觀念ニ及ブ

モ效力アルモノトス、而シテ本件擔保權ノ效果トシテ注意スベキハ會社ガ自ラ此種ノ擔保權ヲ有シ得ベキ株式ハ之ヲ定期市場ニ於テ賣買スルコトヲ得ザルニアリ(第三段ニ述ベタルガ如ク獨逸ニテハ未拂込株式ノ定期賣買ヲ禁止セルナリ)又此種擔保權ハ會社ガ其株式ノ移轉ヲ認メテ他人ノ名義ニ登錄シタルトキハ最早消滅スベキモノナリ。左ニ參考トシテ千九百八年英國新會社法附錄模範定款ニ掲ゲラレタル Lien on shares ニ關スル規定ヲ示サントス。

第九條 會社ハ未タ全部拂込済トナラサル株式ニ對シテ其株式ニ關スル現在又ハ將來ノ未拂込金ノ爲メニ又ハ其株式ニ對シテ會社ガ請求權ヲ有セル一切ノ債權ノ爲メニ擔保權ヲ有ス但取締役ハ何時タリトモ本條ノ擔保權ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得

會社ガ株式ノ上ニ有スル擔保權ハ又其株式ニ對スル總テノ分配金ニモ及フモノトス

第一〇條 會社ハ取締役力適當ト認ムル方法ニ於テ擔保權ヲ有スル株式ヲ賣却スルコトヲ得但其擔保權ノ發生原因タル金額カ即時ニ拂込ムヘキモノナルカ若クハ其金額拂込請求ノ通知後十四日以上ヲ經過シタル後ナラサルヘカラス

第一一條 會社ガ其擔保權ヲ有スル株式ヲ賣却シタルトキハ先ヅ其擔保權ヲ生シタル金額ノ支拂ニ充當シ其殘餘アルトキハ其株式ニ對シテ賣却ノ日迄ニ支拂期限ノ到來シタル債權ニシテ同様に擔保權アルモノ、辨濟ニ充當スヘキモノトス